

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握 <span style="float: right;">職員の定着</span>	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2571800115
法人名	財団法人 豊郷病院
事業所名	甲良町グループホームらくらく
訪問調査日	平成19年10月18日
評価確定日	平成19年10月30日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年10月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2571800115
法人名	財団法人 豊郷病院
事業所名	甲良町グループホームらくらく
所在地	滋賀県犬上郡甲良町在士625 (電話) 0749-38-8182

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	平成19年10月30日

## 【情報提供票より】平成19年9月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 5人, 常勤換算 8.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1階	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	他の経費(月額)	19,800 円	
敷金	無し	職員の定員化		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1,200			

### (4) 利用者の概要( 9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	— 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	82 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 豊郷病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小学校のグラウンドに隣接した場所にグループホームがありリビングや居室から児童が走り回る姿を眺めているだけでも心安らぐ。財団法人豊郷病院が運営するグループホーム。周辺は農村地域で近所の人々から野菜の差し入れや芋堀の誘いを受けたりして季節感を感じる野菜が食卓にのぼることが多い。地元老人会の定例会(月2回)に参加したり、児童がホームへ訪問したり、また利用者が語り部に学校へ訪問したり、地域の防災訓練にホームも一体となり参加するなど地域に支えられたホームで常時出入りする人々が多い。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念を契約書及び重要事項説明書などに明記するように指摘されていたが運営理念のみ別刷りして挿み込まれ改善されている。口腔ケアを毎食後3回実施するように指導を受けていたが、利用者健康チェック表の中に欄を設け改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い課題の抽出と自ホームを第三者的観察から評価することにより、改善に向けた話し合いができたことの意義は大きい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には地元の人々の参加によりグループホームの運営を理解され、地域自治会や老人会の協力で地域防災訓に参加しているなど地域に支えられた活動が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	グループホーム主催のイベントには家族の参加を求め、ホームの利用料を現金で収納して頂き、家族との面接機会を多く持つようにしその時には利用者の生活状況の報告などとともに家族からの意見、苦情などを聞き取るようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元自治会行事や老人会への参加。小学校への訪問(語り部)や児童の訪問を受けたり近所の方々からの野菜の差し入れなど有形無形の支援・連携が出来ている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自信と誇りが持てる人間関係、やすらぎと楽しみが持てる明るい環境、慣れ親しんだ生活様式を取り入れ・・・、地域交流を行い社会的に開かれたホームになるよう・・・と判り易い理念の基で、終末期までのケアを目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時に理念の唱和を行い共有化を図っている。グループホーム内で課題が発生した時にはそれらの課題が理念に照らしてどう対応すべきか皆で話し合いをし、理解を深める努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域老人会の定例会(月2回)に利用者が参加。近所の人々から芋掘りのお誘い、自家栽培のトマトや野菜の差し入れ、そば打ちの体験のために訪問、祭りには参加のお誘いなどなど戴いて地域と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組みケアの見直し共に課題を洗い出し互いに話し合いを行った。改善策についても具体的な内容に絞りこんで取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政、地域、医療関係者と幅広い委嘱を行い2カ月毎に運営されて地域からの支える提案なども出ている。		運営推進会議をさらに活発にするために老人会役員などの委嘱をするなど増員は出来ないか検討を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会は2カ月ごとに開催し行政からも参加して戴いており、またグループホーム主催の各種イベントに行政の参加頂いている。尚、行政とグループホームとの連絡協議会議を月1度の頻度で開催し情報交換と指導を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料は家族の人の手により毎月納金戴き、直接お会いして利用者の生活状況、健康状態、金銭管理を報告している。ホーム便りは定例的に発行し配布している。		利用者への報告事項や家族からの意見を求める事柄などマニュアル化して担当者により差が出たり、漏れが無いように検討を望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームのイベント時は家族も招待し家族交流の機会を設けたり、利用料の納金で毎月グループホームへ来て頂く事から利用者の生活ぶりの報告と同時に意見苦情なども聞くようにしている。それらの意見はホーム会議に反映している。		家族交流会からさらに発展して家族会の結成を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意欲を高め、定着を図る為に、ホーム会議は全員出席して行う。職員懇親会は2、3カ月に1度の頻度で外食しながら行う。外部の研修は積極的に参加などの配慮をしている。また採用はグループホームのケアに向けた人を心掛けている。異動が発生した時には事前に可能な限りの異動理由を知らせている。		職員の定着化に努力されておりこの状態が継続されるよう期待する。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会には毎回職員を派遣している。またグループホーム交換研修会にも毎回職員を派遣している。外部研修は職能に応じた研修に出張扱いで対応している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、センター長がグループホーム部会の代表を務め職員研修会や各グループホームへの交換研修会などを通じて他のグループホームの学ぶべき箇所を持ち帰り取り込んでいる。		グループホーム部会での交換研修会や共同開催のイベントなど新進的な取り組み業界内の親睦や刺激に繋がりケアのレベルアップ向上につながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者に体験制度を設けている。家族にもグループホームの見学やケアや運営理念の説明を理解して戴けるまで行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の多くは農村地域で生活されてきた方々が多く、野菜づくりや田舎料理や漬物付けや伝統行事など学ぶべき事柄が多く支えあう関係づくりに努力している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	リビングの仏壇に入居者自ら、毎日3回読経されており、地藏さんをホーム敷地内に祀って毎日草花やお水を供えたり。また映画を見にいたり、安定した生活を取り戻して頂く配慮をしている。問題行動を切り捨てるのではなく、どうすれば安定した生活を取り戻せるのかを考察し対応に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見、利用者の意見などを基に介護計画を担当者が作成し、グループホーム会議で全職員の意見を求めながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとは別途に利用者の状態変化時や利用者の発言、行動、家族の訪問時の話し合いの中から必要と感じたときには随時見直しをかけて介護計画を修正し、その結果は家族へも連絡している。		介護計画の見直しを行った時には家族のサインを頂くように徹底を。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携のサポート体制をとっている。利用者の元居住地の老人会参加や個別の買物などの送迎要望にも応えて対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者(全員)の主治医を入居後も家族の引率で行っている。但し緊急時などは家族に連絡を取りグループホームが付き添いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者の方針で終末期までケアを行いたいという思いから職員勉強会を継続してきた。また家族にも話し合い、ホーム内で全員で看取った事例が2件ある。その意義なり考え方の理解が浸透できた。利用者も皆に看取って逝きたいとの発言があり終末期までのケアは家族も含め共有化が出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が望まれる呼称を使っている。ボランティアを受け入れる時にはその都度利用者の名前を帰ってから公表しないようお願いしている。利用者の情報は事務所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内には菜園、リビングには仏壇が置かれ朝、昼、夜3回利用者の大半が読経をされ、外出や散歩は利用者毎の個別希望に対応している。またホームの前は小学校のグラウンドで児童の元気な動きが見られ心休まる好環境と云える。併設のデイサービスの日常行事にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はホーム内での栽培や近所の菜園からの収穫物の差し入れで季節を感じる食事が行われている。また料理、盛り付け、後片付けなど利用者の大半の人々の参加で楽しく行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしているが利用者は毎日好む人、隔日に入浴する人などで強制をせずに入りたい時に対応できることとしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買物、外出、読経、菜園、グループホーム内の地藏さん参り、野花を活けるなど利用者各々に楽しむ事がある。ホームのリビングから児童の体操や走り回る姿や声が聞こえ安らぐ。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、季節の花見、などなどが日常の生活に取り入れている。ドライブなどは併設のディサービスの車を借用して行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や吐き出し窓は昼間は施錠していない。玄関には光線遮断器でチャイムが鳴るようにしている。地域との交流は日常活発に行われており地域の人々も支援して頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の防災訓練にグループホームも参加し、夜間時の災害を想定した避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の持病による食事制限、好き嫌い、咀嚼力などを配慮して減塩や水分補給においてもお茶以外にもスポーツドリンクや乳酸菌飲料など取り入れ工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	野花をホーム内で活ける。リビングはは広く、続きの間は8畳の和室で仏壇が置かれている。民家の感じで作られホームの前庭は広く開放感がある。またリビングから小学校のグラウンドや校舎が全貌で開放感を増幅している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大半の居室では使い込まれた家具が持ち込まれホームでの生活ぶりのスナップ写真や家族写真が壁面に張られており自宅の居間を想わせる配慮がされている。		